

第5回 野洲市総合計画審議会 会議結果の概要

日 時：平成23年7月6日（水）午後2時00分～午後4時15分

場 所：野洲市市民活動支援センター ホール

出席委員：19名（欠席委員10名）

1. 開会

2. 会議の成立確認

3. 報告事項

①各部会の審議状況について

*各部会の審議をふまえて、計画の改正素案を修正し、完成版の形式をイメージした資料としてまとめている。

*これまでの部会審議について各部会長より報告。

<主な意見等>

*子育て・教育・人権部会では、障がい児教育、特に発達障がいの子どもの教育についてどのような議論がされたのか。

→学校教育の重要な取り組みとして取り上げており、福祉と関連付ける必要があると考えている。「発達障がい」という文言を直接盛り込むかどうかはまた検討したい。

*子育てをしている世帯が減少している中で、地域や市がどのように子育てを支えるのかについてはどのような議論がされたのか。

→地域ぐるみの子育て、学校と地域との連携による子育てという観点からも議論している。

*「暴力や健康の問題は女性だけのものではないので、特筆しない」という報告があったが、女性ならではの問題もあるのではないかと。機会の平等だけではなかなか結果の平等に結びつかない。

*「世界平和は市で取り上げるには大きすぎる」という報告があったが、一つ一つの自治体が謳っていくことで平和を実現できるのではないかと。

→現行案が世界平和に重きを置いていたので、やや地域の平和に視点を移し、その積み上げにより、平和を目指していくといった議論の中で出た意見である。

*農業では食べていけない現実がある中で、農林漁業の振興と就労支援について、どのように考えているのか。

→後継者、担い手は農林漁業共通の課題であるという意見があった。就労支援としては、子どもの頃から農林漁業に触れるよう、学校における職業体験等の取り組みを盛り込んでいる。

*「速やかな同和行政の終結」という文言は誤解を招くのではないかと。なかなか進まない現実をふまえて考える必要がある。

→部会の意見を反映し、終結をめざすのではなく、むしろ残された課題を解決しなければならないという記述を追加している。

*「低所得者福祉の推進」については、就労支援と結び付けて考える必要がある。

→当初、事務局案では生活保護受給者に軸足を置いていたが、現状は低所得者全般を捉えた記述としている。

*農林漁業の後継者については、現在農林漁業を営んでいる方やその親族等に限って考えるのではなく、市内外から広く探し、開かれた農林漁業としてはどうか。

- * 観光、文化、スポーツといった観点から、地域資源の活かし方について議論をより深めてほしい。
- * 兼業農家や林業については、産業として振興すべきかどうかを含めて考える必要がある。それよりも間伐材の利用やレジャーへの活用を進めてはどうかという意見もあった。
→エコツーリズムや環境観光にもつながるのではないか。
- * 「地域資源を活かした観光の振興」の中で、外国人観光客の取り込みについても検討してほしい。
→想定される主な取り組みの一つに「新たな顧客の獲得」を位置づけている。外国人観光客もこの「新たな顧客」に含めて考えている。
- * 野洲の文化、伝統について、高齢者をはじめとした市民が市内に一泊しながら学ぶことができるような取り組みをしてはどうか。
→「身近な市民遺産の再発見と保全」に含まれると考えられる。これは観光ともリンクしている。
- * 「防火・防災の強化」について、市民懇談会でも意見が出ていたが、震災が起こった年に策定する総合計画であるため、平常時からの市民のつながりの重要性、原子力発電の対応、野洲川のダムといった防災についてもっと盛り込むべきではないか。
- * 現行案で書かれていた「人権・環境の視点と協働の手法」が全て削除されているので、こうした視点は基本目標6にきちんと盛り込むようにしていただきたい。

②市民懇談会開催結果について

- * 市民懇談会を6月18日から26日にかけて7学区で開催した。
- * 市民懇談会で出た意見について報告。
- * 意見については整理を進め、今後の議論に活用していく。

<主な意見等>

- * 参加者数の性別・年齢の構成をわかるようにした方がよい。
- * 祇王学区の懇談会では、新駅がぜひほしいという意見がある一方、明確に必要ないとする意見もあった。

4. 協議事項

①今後の予定について

- * これまでの部会審議は円滑に進んでおり、できれば3回で部会としてのとりまとめを行いたい。

5. その他

- * 第3回部会は7月中下旬、第6回審議会は8月上旬の開催を予定している。

6. 閉会